

財政問題で知事に質問

基金目標300億円は妥当か

6月議会では平井知事に政治理念という総論をお聞きし、次回から産業、福祉、教育と各論の議論をする予定です。9月議会では財政と官製ワーキングプアをテーマに一般質問しました。以下のその概要です。財政は県政の重要な課題。引き続き議論して参ります。

質問 貯金増より借金減を

県民は、家を建てたり、車を買ったりとお金が必要になれば、貯金があれば貯金を引き出して使います。借金はしません。金利がもつたないからです。県の政策的に自由に使える貯金(財政調整型基金)は前年度末で449億円。借金は4126億円です。

財政誘導目標として同基金300億円を掲げられましたが、基金を取り崩し、少しでも返済を減らしたほうが県民の負担は少なくなるのではないのでしょうか。

財政当局の説明では、300億円の根拠は平井知事が初当選した2007年度予算3569億円の10%、同年度標準財政規模2080億円の15%だそうですが、5%と8%ではだめな

のでしょいか。鳥取県西部地震の対策費352億円も目安だそうです。でしたら

300億円は片山県政から引き継いだときに持っていた貯金で、これを減らすまいというだけのことです。貯金は減らさない、そして、将来負担を増やさなければ、財政を悪化させて、

将来の方にツケを残すことにはなりません。さらに黒字のプライマリーバランスを年々歳々やっていくことも目標にさせていただきました。これだけのことを心がけていけば、財政に対する後世への責務を果たすことになると考えています。恐らく財政担当が、いろんな教科書的な話を申し上げ

流動性持つ方が賢明

確かに財政学の教科書に出てくる数値ですが、理由は明確に示されています。金や現金は昨年4月には256億、今年6月は707億円もありました。今は基金を減らして金利負担を圧縮し、財政体制を強化すべきではないでしょうか。

方税とか、国の制度改正に伴う国庫補助金や地方交付税の変動です。本県の地方税は約400億円。仮に、これがほとんど吹っ飛んで

確かに財政学の教科書に出てくる数値ですが、理由は明確に示されています。金や現金は昨年4月には256億、今年6月は707億円もありました。今は基金を減らして金利負担を圧縮し、財政体制を強化すべきではないでしょうか。

300億円が絶対ではありません。要らない借金は増やしていいのです。少しは流動的なものを含めたいと思います。

つ方が賢明

現実には借金の繰り上げ返済しようとする違約金を取られるので難しいことは承知しています。しかし、金利が7%以上は公債費対策として返済を認めるが、それ以外は認めないというのでは、国は高利貸しです。この実態を国民にも知らせつつ、他県とも連携をして、引き続き御努力をお願いします。

も、300億円の貯金があれば、持ちこたえられます。300億円は、基金の水準としては妥当ではないかと考えています。

減っても、借金しない方向です。最終的には4年後、貯金は減らさないことを目標に、軟着陸できるように調整していきます。ですから、多分、砂場議員が言うようにしていることと、私達が今やるうとしていないことは近いのではないかなと思いながら聞いていました。

高金利の返済を認めない国の姿勢はおかしい。地方団体挙げて要求をします。財務省は硬いんです。高い金利の借金を地方団体が繰り上げ償還すると、財政融資金で見込んでいる金利が国の財政に入らないからです。僕らからしますと、馬鹿馬鹿しい、おかしな話です。国民トータルとしてバランスがいい財政の運営の仕方を考えれば、今どき5%、6%という金利はない。強く我々も申し上げていきたいと思えます。



本会議の一般質問で平井知事に論戦を挑みました。

議員と同じ

300億円が絶対ではありません。要らない借金は増やしていいのです。少しは流動的なものを含めたいと思います。

委員会でも様々提言

議会改革推進会議では、政務調査費の見直しを進め、自動車のリース代に歯止めをかけました。福祉生活病院常任委員会では「生レバーの販売禁止は科学的ではない」と質を模索しました。